

第2学年〇組 英語科学習指導案

福岡市立〇〇中学校
指導者 〇〇 〇〇

- 1 単元 Program 5 You Look Great!
- 2 指導観

今日、交通手段の発展や急速な情報化の波にのり、日本でも私たちは容易に海外の人々や文化に触れることができ、インターネットなどを通じてお互いにコミュニケーションを行うことが可能になった。また、それに応じた英語教育活動の活発化、行政面での整備等も進み、以前に比べると生徒の英語を運用する能力や積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度は全体的に向上してきていると思われる。

ただこの状況の中、本校においてここ数年課題として感じてきたことは、英語に対する興味・関心や学習習慣の差による学力の二極化と、異文化に対する寛容性の問題である。どの生徒も、国際社会でより良く、豊かに生きていくために、実践的コミュニケーション力を身につけ、異文化に対する寛容性を育てていくことは、英語教育において重要な課題である。

本題材では、主人公である由紀がほめ言葉について体験し、異文化との関わりの中でほめ言葉の意味を知る。ここでは、ほめ言葉の日米文化での違いを理解し、相互の誤解がないよう英語で会話を進めるには、相手の文化的背景にも留意する必要があることを生徒に学ばせたい。これからの国際社会に生きる生徒が、異文化相互理解の立場に立ったコミュニケーション力を身につけていく上でも意義のある単元である。

学習内容としては、ほめ言葉を通しての日米文化の違い、人や物の様子を表すSVCの文型、「だれかに何かを与える」といったSVOOの文型、自分の考えを述べる際に使うI think ~. の文型が取り上げられている。言語材料に関しては、文型に慣れるための反復練習や表現活動を通して、現実のコミュニケーション場面で英語を臆せず発話する態度を身につけていくことが期待できる。

本学級の生徒は、35名(男子17名、女子18名)である。男女が同程度になるように配慮した単純分割により、少人数制のクラスを編成している。普段はどちらのクラスでも同教材を用い、進度を合わせながら授業を行っている。生徒は全般に英語学習への興

味・関心が高く、日頃の自主学習ノートへの取り組みや発表活動に熱心な生徒が多い。しかし、興味・関心および学力の高い生徒と、日々の積み重ねが苦手ですますわからなくなっていく生徒との差が激しい。日頃から、集中を持続することができない生徒に対する興味・関心の喚起と、指導改善や学習活動の工夫を行っているが、達成感を味わわせるまでには至っていない。

単元に関連してアンケートをとった所、「英語を使ってのコミュニケーション活動が好き」、「外国の文化に興味・関心がある」と答えた生徒は半数以上であった。一方で、「英語でのほめ言葉を知っている」という生徒は3分の1程度で、そのほめ言葉もNice, Good, Great, Wonderful, Excellentなどの単語での表現であった。

指導にあたっては、ほめ言葉を通しての日米文化の比較により、生徒の異文化に対する関心を深めるとともに、異文化への寛容性も身につけさせたい。また、英文の作り方がわからないことから、意欲が低下し、英語嫌いになっていく生徒をなくしたい。

そのためにまず、日米の具体的なほめ言葉の例を記入するワークシートを用意し、単元への興味を喚起する。更に本文の内容理解の際に、ほめ言葉の受け止め方や使用場面の違いに対する気づきを生徒自身から引き出し、異文化理解の感動を味わわせたい。次に、基本文については、文のしくみや作り方が理解しやすいように、日頃使用しているワークシートに加え、電子ボードや教具を効果的かつ視覚的に活用したい。また、理解から実践的なコミュニケーション力につながるように、ドリルの要素のある活動を組み込んでいく。最終的には、どの生徒も“わかる”を実感し、自信を持って楽しく英語を発話できるようになることを目指したい。

なお、単元を通して、毎時間の始めにQ & A活動に取り組みせることにより、基本文の定着およびコミュニケーション力を高める機会としたい。

3 目標

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	・日米文化の違いに興味を持ち、コミュニケーション活動において意欲的に英語で書こうとし、話そうとしている。
表現の能力	・ほめ言葉や、SVC, SVOO, I think (that) ~. の文型を適切に運用し、状況や自分の考えを説明できる。
理解の能力	・基本文を理解し、本文の内容を読み取ることができる。
言語や文化についての 知識・理解	・ほめ言葉に表れた日米文化の違いを理解できる。 ・SVC, SVOO, I think (that) ~. の文のしくみを理解している。

4 指導・評価計画 (10 時間)

配時	学習活動・内容	指導上の留意点	評価規準 (評価の方法)	評価基準 (関心・意欲, 表現, 理解, 言語・文化)		Cと判断される 生徒への手だて
				A	B	
2	<p>自分の持ち物について英語でスピーチしよう。</p> <p>本文全体を通して聴き, ほめ言葉について考える。 § 1 の基本文を理解し, それを用いて表現活動をする。 ・ look (become) + 形容詞, 名詞</p> <p>§ 1 の新出語, 本文の内容を理解し, Q & A に答える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ほめ言葉について知っている英語表現を可能な限り出させる。 ・ 簡単な会話活動の中で, 相手の様子を表現できるような場面設定をする。 ・ 内容を聞き取る際に, ヒントとなるキーワードや絵を提示する。 ・ 聞き取りの理解度が低い場合は, くり返し聞かせる。 	<p>関: ほめ言葉や日米の文化に関心を持っている。 < 様相チェック ></p> <p>表: look を使って, 相手の様子を相手に伝えることができる。 < 記述内容分析, 発言チェック ></p> <p>理: 基本文の意味を理解し, 本文の内容を読み取ることができる。 < プリント分析 ></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ほめ言葉や日米文化の違いについて関心を持ち, 本文を聴いている。 ・ 基本文を用いて, いろいろな人や物の様子を描写できる。 ・ 内容の大切な部分に加え, 細かな部分までも正確に読み取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本文を用いて, 与えられた情報で人や物の描写ができる。 ・ キーワードや絵を参考にして, 内容の大切な部分を読み取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本文のパターンをいくつか示し, それを見ながら英文を作らせる。 ・ ワークシートの記入をきちんと行えるように, 机間指導を行う。
	1	<p>§ 2 の基本文を理解し, それを用いて表現活動をする。 ・ give (send, show) + O + O</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電子ボード上での並びかえ作業を見せることにより, 語順について理解しやすくする。 ・ 反復練習を行い, 基本文の定着を図る。 	<p>関: グループでの英作文活動に意欲的に取り組んでいる。 < 様相チェック ></p> <p>表: 与えられた情報を使って, SV00 の文型の英文を作り, 発表・発話することができる。 < 発言チェック, 記述内容分析 ></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 与えられたカードの情報を用い, 自らまたは友達と協力するなどして意欲的に英作文をしようとする。 ・ 基本文の構造を理解し, 即座に適切な英文を発表・発話することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本文の構造を理解し, 考えながらも適切な英文を発表・発話することができる。
1		<p>§ 2 の新出語, 本文の内容を理解し, Q & A に答える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ アメリカの日常の会話の慣例などを説明する。 	<p>理: 基本文の意味を理解し, 本文の内容を読み取ることができる。 < プリント分析 ></p> <p>関: グループでのコミュニケーション活動に意欲的に取り組んでいる。 < 様相チェック ></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内容の大切な部分に加え, 細かな部分までも正確に読み取ることができる。 ・ 自身の考えを積極的に相手に伝えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ キーワードや絵を参考にして, 内容の大切な部分を読み取ることができる。
2	<p>§ 3 の基本文を理解し, それを用いて表現活動をする。 ・ I think (that) ~</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 簡単な会話活動の中で, 自分の考えを表現できるような場面設定をする。 	<p>表: think を使って, 自分の考えを相手に伝えることができる。 < 記述内容分析, 発言チェック ></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 与えられたスキットに加えて, それ以外の表現工夫を加え, 自分の考えを伝えることができる。 ・ 日米のあいさつやほめ言葉の違いに自ら気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 与えられたスキットを使って相手に自分の考えを伝えることができる。 ・ 日米のあいさつやほめ言葉の違いを理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別指導を行い, 与えられたスキットを使ってまずは教師と一緒に会話活動を行う。
2	<p>§ 3 の新出語, 本文の内容を理解し, Q & A に答える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 聞き取りの理解度が低い場合は, くり返し聞かせる。 	<p>言: 日米のあいさつやほめ言葉の違いが理解できる。</p> <p>理: 基本文の意味を理解し, 本文の内容を読み取ることができる。 < プリント分析 ></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内容の大切な部分に加え, 細かな部分までも正確に読み取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ キーワードや絵を参考にして, 内容の大切な部分を読み取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートの記入をきちんと行えるように, 机間指導を行う。
2	<p>自分が人からもらったプレゼントについて英語で説明する。 ・ 誰がくれたものなのか。 ・ 品物にまつわるエピソード ・ 自分の思いなど</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ できるだけ既習の表現を用いながら自分がもらったプレゼントについて説明するよう助言する。 	<p>関: プレゼントについての英作文活動に意欲的に取り組んでいる。 < 記述内容分析, 様相チェック ></p> <p>表: プレゼントについて相手に伝えるように発表することができる。 < 発言チェック ></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既習の表現を用いて, 人からもらったプレゼントについての説明に意欲的に取り組もうとしている。 ・ プレゼントについて与えられたテーマだけではなく, 相手に興味を持たせるように相手に伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 与えられたテーマだけではなく, 相手に興味を持たせるように表現に工夫がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 説明文を作る際, パターンを例示し, 自分のプレゼントに合うように単語を変えながら英文を作らせ, それを発表させる。

5 本時 平成20年10月1日(水曜日) 第5校時 場所 2年学習室

(1) 本時の主眼

・SV00の文型を理解し、「～(人)に…(物)を-する」という英文を正しく作ることができる。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度、表現の能力)

(2) 本時の指導観

前時までに生徒は、日米の具体的なほめ言葉に着眼し、look+形容詞の表現を学んでいる。

本時は、SV00の文型について理解し、その文型を用いたコミュニケーション活動を通して、実践的な表現力を身につけることをねらいとする。まず、Warm-upのQ&A活動において、§1の基本文やほめ言葉についての復習をするとともに、英語学習の雰囲気を作り、英語を人前で発話することに慣れさせる。次に電子ボードを使用して、基本文の導入を行う。その際、日本語と英語の語順の違いに気づかせる。

次に、4～5人の小グループに分かれ、並べかえ用のカードを用いて基本文の文型を使った英作文をさせる。個人およびグループ内での助け合い活動の両面を促したい。また、即座に英文を作り発話することに慣れさせるために、全員に引いたカードから作った英文を発表する場面を設けることとする。その際、既習のほめ言葉をそれぞれにかけていく。またここでは、教師による活動の様相チェックや発表時の表現能力の評価を行う。グループ活動後には、自己評価も生徒自身に行わせる。

最後に、電子ボードで本時の学習事項を振り返り、ワークシートに基本文と重要ポイントの記入をさせ、文のしくみの理解を促す。その際、SV00の文型をto(for)を使って言い換える表現についても触れる。

次時は、ほめ言葉に対する日米での捉え方の違いを本文から読み取り、ほめ言葉に対する返事の仕方について学習していくことになる。

(3) 準備

宿題点検用はんこ CDプレーヤー 電子ボード 並びかえカード ワークシート

6 過程

学 習 活 動・内 容	資料 教具	指 導 上 の 留 意 点	形態	配時	評 価 規 準 (評 価 の 方 法)	評価基準		Cと判断される 生徒への手だて
						A	B	
1 自習ノートの点検を受ける。またその間に英語の歌に親しむ。		・点検の間、歌詞を見ながら英語の歌を聴くように促す。	個人	5				
2 あいさつ/Warm-up(Q&A)		・相手に届く声の大きさをさせる。 ・既習の基本文に関する事項やほめ言葉の復習の機会とし、全員に発表させる。	一斉 個人	5				
3 本時の復習の確認			一斉	2				
4 基本文(SV00の文型)の導入 重要事項の説明		・電子ボード上で基本文の日本語と英語の語句の並びかえ作業を見せることにより、語順について理解しやすくする。	一斉	10				
5 基本文の文型を使ったコミュニケーション活動および発表 ・活動の手順を聞く。 ・グループに分かれる。 ・与えられた情報を用い、英作文をする。 ・自分が作った英文を友達に伝える。		・異文化理解の一助として、グループ分けが仲よしグループにならないように仕組む。 ・机をgive, show, teach, buyの4つのテーブルに分け、「人」や「物、事」が書かれたカードのに入った封筒をそれぞれに配置し、グループごとに座らせる。 ・自分が作った英文をグループ内で発表させ、聞き手がほめ言葉を用いながらその語順の正誤を示す。	一斉 グループ 個人	15	関：グループでの英作文活動に意欲的に取り組んでいる。 <様相チェック> 表：与えられた情報を使って、SV00の文型の英文を作り、発表・発話することができる。 <発言チェック、記述内容分析>	・与えられたカードの情報をうい、自らまたは友達と協力するなどして意欲的に英作文をしようとする。	・基本文の構造を理解し、考えながらも適切な英文を発表・発話することができる。	・グループ内での助け合い学習を活発にし、友達のアドバイスを受けながら英作文活動ができるようにする。
6 本時のまとめと自己評価 基本文および重要事項のワークシート記入		・電子ボードで生徒の理解度を確認しながら本時の学習内容を振り返り、ワークシートを書かせる。	一斉	8				
7 基本文の応用 ・基本文(SV00の文型)の言い換え表現について知る。		・言い換え表現については、混乱をさけるために、簡単に触れる程度に留め、また機会があるときに練習することを伝える。	一斉 一斉	3 2				
8 次時の予告とあいさつ								

これ以外に資料を添付する。